



佐 潟 通 信

2007 年春

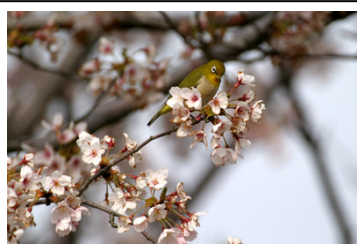
33号

◆たくさんのいきもの、夏へ◆



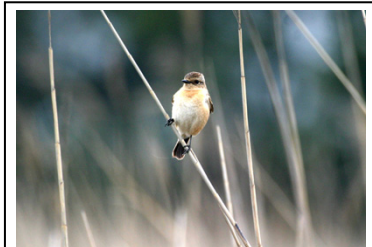
アズマヒキガエル

繁殖活動は合戦のようです



桜にメジロ

桜の頃数十羽も群れていきます



ノビタキ

渡りで一週間ほど観察できます

雪のない冬が過ぎ、春は早く訪れるものと思っていましたが、3月に積雪など肌寒い日が続きました。いきものたちは、例年より少し早い春のようすでした。佐潟公園の桜は、4月7日に開花し、4月4日には、繁殖地が心配なアズマヒキガエルの繁殖を確認しました。小鳥たちの渡りのピークは4月下旬で、今年もまるでお祭りのようににぎやかに佐潟の樹林帯を通過していきました。イカルやオオルリのさわやかなさえずりが印象的でした。

4月24日にはオオヨシキリを初認。佐潟の夏を代表する野鳥です。ゴールデンウィークを過ぎたころから「行行子（ぎょーぎょーしー）」といたるところで鳴き始めました。

5月になると、満々と水を蓄えていた佐潟は、水生植物や魚類の生息環境の維持のため、徐々に水位を下げていきます。水際にショウブやマコモの水生植物の緑が増えて、潟面にはヒシやハスの赤みを帯びた葉が浮かんでいきます。これから佐潟は花や虫、たくさんのいきものが生まれ育まれ夏へ向かいます。



キツネ

おお~珍しい!

3月27日上潟周遊道にて

◆佐潟のいきもの◆

<水生植物> サンカクイ (三角藨)

池や沼、川岸などに生える高さ 0.5~1.2mの多年草で、三角形の茎の断面からその名がつけました。別名「サギノシリサシ」は直立した苞の先がとがっていることによります。長さ 2~5 cmの苞(ほう)のわきから 2~3 個の枝をだし、先端に 2~3 個ずつ小穂をつけます。自然生態観察園で見られます。

花期 7月~10月



カヤツリグサ科・ホタルイ属

学名 : *Scirpus triaueter*

◆佐潟自然散歩(月例観察会)◆

佐潟ボランティア解説員の皆さんがやさしく解説、案内いたします。気軽にご参加ください。

開催日：毎月第2・第4土曜日 時間：午前9時30分～11時

6月9日(土)・23日(土) 7月14日(土)・28日(土) 8月11日(土)・25日(土)

◆ふたつの模型が館内に◆

佐潟10ラムサールフェスティバルでもウエルサンピア会場で展示した佐潟の立体大型模型(2×1m)を製作者である新潟工科大学工学部建築学科(飯野教授)さんから寄贈していただきました。砂丘湖



である佐潟の地形がよくわかり、来館者の目を引き寄せています。また館内の空間に飛翔するコハクチョウ2羽が浮かびました。新潟鳥風の会さんから2ヶ月をかけて実物大の鳥凧を制作していただきました。本物のコハクチョウのような迫力と精度をご覧ください。



◆保全と賢明な利用◆

菜の花畑 湿地センターから徒歩3分の岸辺に今春、菜の花が咲き誇りました。新潟市の「新潟菜の花プラン」に地元の赤塚小学校が協力して菜種の収穫をします。その菜種から油を採って子ども達の給食に利用する予定です。佐潟の潟普請の際に掘り出す底泥を堆肥化し、肥料にしていく計画もあります。観て食べて学習して、佐潟の保全にも貢献できて、小さいけれど夢のある試みが進んでいます。



赤塚中学校クリーン活動

佐潟のほとりに立つ赤塚中学校は、毎年佐潟のクリーン活動を生徒会が中心に全校生徒で実施しています。今春はソロプチミスト新潟の協力で、ミズアオイが生育できる環境整備と種を発芽させて植え付ける作業も実施しました。ゴミ収集はゴミ自体が少なくなっています。これまでの地域をあげてのクリーン活動の成果ですね。



佐潟水鳥・湿地センター利用のご案内

【開館時間】9:00～16:30(冬期間11～2月の土・日は7:00から開館しています)

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

佐潟についての情報、質問等ありましたら、お気軽にFAXかE-mailをください。

編集 佐潟水鳥・湿地センター

〒950-2261 新潟市西区赤塚5404番地1

電話 025(264)3050 / fax025(264)3051

E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

発行 新潟市西区役所区民生活課

〒950-2054 新潟市西区寺尾東3丁目14番41号

電話 025(264)7261

